

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	多文化共生推進センターの管理運営に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	2	1	8	
政策	14個人が尊重しあう多様な市民交流をつくります	担当課室	企画財政課			
施策	144世界と結びつく国際化の促進	担当課室長	小笠原 直樹			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	センター機能の拡充(プラザカフェの実施、HPの開設)	③平成29年度に取組む改革・改善内容	センター機能の拡充として、引き続きプラザ通信の発行やプラザカフェを実施するとともに、新たに英会話教室を開催するなど、センターの認知度を高める取組みを実施していく。
②①に基づく取組み結果	通訳ボランティア制度の魅力アップとして、プラザカフェを年2回実施した。また、HPの開設に向けた準備を進めた。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内の外国人及び日本人	意図(対象をどうするのか)	多文化共生社会の実現
②事務事業の概要	多文化共生推進センター(愛称:かまがやワールドプラザ)を管理・運営していくもの。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	外国人住民が増加傾向にある中で、今後も外国人の方が暮らしやすいまちづくりに繋がる施策を実施していく必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	①コミュニティ通訳講座の開催(年1回)、②センタースタッフ会議の開催(年8回)、③プラザカフェの開催(年2回)、④プラザ通信の発行(年2回)、⑤他市国際交流センターの視察、⑥市民便利帳(ダイジェスト・英訳版)の発行					
②成果を表す指標	指標名称	平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
	i 市内外国人数	1,133	1,248	1,364	人	統計かまがや
	ii 多文化共生推進連絡協議会団体数	4	4	4	団体	業務取得
	iii 多文化共生推進センター来所者数	3,402	3,435	2,827	人	業務取得
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳		平成29年度予算	
事業費(千円)	4,883	4,832	金額(千円)	内容	5,617	
	国支出金(千円)		952	プロジェクトマネージャー報酬		
	県支出金(千円)		2,602	非常勤職員賃金		
	市債その他(千円)		933	通訳ボランティア謝礼		
	一般財源(千円)	4,883	4,832		5,617	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	多文化共生推進センターの市民の認知度が低いこと。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	多文化共生社会を実現するための拠点施設として位置付けられているセンターのPRを推進していく必要があるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	平成28年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H27からの繰越	
		H27⇒28繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由			流用・充当			
	平成29年度への繰越額					

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	都市のブランド化事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	2	1	8	○
政策	31魅力あふれるまちづくりを進めます	担当課室	企画財政課			
施策	314鎌ヶ谷市の魅力あふれるまち並みづくり	担当課室長	小笠原 直樹			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	統一コンセプトに込めた思いの市民等との共有を図っていくためコンセプトブックの作成や、ブランドサイトの拡充等の取組みを実施していく。	③平成29年度に取組む改革・改善内容	ブランドサイトの活用による情報発信量の増加(インフォメーションコーナー)を図る。
②①に基づく取組み結果	市の魅力紹介のためのコンセプトブックの作成や、ブランドサイトについてTOP画面の改良やフォトギャラリーを加え、ブランドサイトの充実に取り組んだ。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内外の方	意図(対象をどうするのか)	特に若者世代の人口誘導を図る
②事務事業の概要	人口減少・少子高齢化が進展する中で、市の魅力や特徴等を集約した統一コンセプト等を設定し、積極的なPR等を行うことで、若者世代を中心とした人口誘導を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	全国的に人口減少等が進展する中で、地方創生など各自治体ならではの取組みにより、人口誘導や企業誘致などを進める自治体が増加する中で、本市の魅力等を積極的にPRする方策の1つとして全庁的に実施していく事業と考えられる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	都市のブランド化のコンセプトブックを作成し、公共施設、新鎌ヶ谷駅などで配布するとともに、成人式において配布した。また、都市ブランド化専用サイトにフォトギャラリーのメニューを追加し、WEBサイトの充実を図った。						
②成果を表す指標	指標名称	平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠	
	i	ブランドサイト閲覧数	-	1,451	11,182	件	業務取得
	ii	駅でのポスター掲示箇所	-	5	0	箇所	業務取得
	iii	中吊り広告実施交通機関	-	4	0	社	業務取得
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳		平成29年度予算		
事業費(千円)	10,797	1,895	金額(千円)	内容	0		
	国支出金(千円)	10,797	815	コンセプトブック作成			
	県支出金(千円)		1,080	ブランドサイトの充実			
	市債その他(千円)						
	一般財源(千円)		1,895		0		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	市外の方への周知を図っていくために、まず、市が「育つまち」に関連する取組みの拡充を図り、そして市民の方と思いを共有し共に取組みを進めていく必要がある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	コンセプトブックの作成及びブランドサイトの内容を充実させ、都市のブランド化事業としての土台作りが完了したため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	コンセプトブックの作成及びブランドサイトの充実	平成28年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額	決算額				
②計画に対する事業実績	コンセプトブックの作成及びブランドサイトの充実の実施	2,000	2,000	当初	2,000	1,895	H27からの繰越	0
				H27→28繰越			現年分	1,895
③達成状況	完了			補正				
④未完了・非着手の理由				流用・充当				
		平成29年度への繰越額(単位:千円)		0				

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	借入金元金償還金に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	12	1	1	
政策	41計画の実現のために	担当課室	企画財政課			
施策	412効率的で健全な行財政運営の推進	担当課室長	狩谷 昭夫			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	「地方債の総合的な管理方針」等に基づき、公債費の増に対応する。	③平成29年度に取組む改革・改善内容	「地方債の総合的な管理方針」等に基づき、公債費の増に対応する。
②①に基づく取組み結果	方針に基づき約3億円の積立を行い、28年度末残高20億円を方針通り確保した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	借入金元金	意図(対象をどうするのか)	確実に償還する
②事務事業の概要	借入に伴う元金償還を行うもの。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	ここ数年重点化を図った施設整備等により、公債費の増が見込まれる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	方針に基づき約3億円の積立を行い、28年度末残高20億円を方針通り確保した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
	i	実質公債費比率	1.4	0.5	算定中	%	業務取得
	ii	将来負担比率	16.7	19.4	算定中	%	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳		平成29年度予算		
事業費(千円)	2,235,647	2,353,669	金額(千円)	内容	2,580,644		
国支出金(千円)	31,290	30,819	2,353,669	市債償還元金	30,000		
県支出金(千円)	2,607	2,568			2,500		
市債その他(千円)					140,000		
一般財源(千円)	2,201,750	2,320,282			2,408,144		

IV 評価・検討

①課題	ここ数年重点化を図った施設整備等により、今まで以上に計画的な公債費推計及び返済計画が必要である。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	市債の償還は、市以外に担い手はおらず、今後の公債費の見込みを把握し、適切に対応していく必要があるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	平成28年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H27からの繰越
		H27⇒28繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由	0		流用・充当		
	平成29年度への繰越額(単位:千円)				